

## 特集「響け、長崎の鐘」制作記（前編）

*Singo Teshima & Yutaka Hoshino, August, 2015 at Nagasaki*

被爆70年のこの夏、長崎放送局と大阪放送局のアナウンスでは、ラジオ特集「響け、長崎の鐘」を共同制作しました。原爆で倒壊した浦上天主堂の鐘を掘り起こし、戦後43年間、鳴らし続けたカトリック信者、山田市太郎さんの物語です。制作の舞台裏を2回に分けて、ご紹介します。

### 貴重な肉声を記録したテープを発見

私は、初任地の長崎放送局に勤務していた1989年6月、山田市太郎さんの自宅を訪ね、天主堂の鐘を掘り起こした当時の経緯をインタビューしました。貴重な録音だったので、6mmテープの箱に「このテープは永久保存して下さい」と書き残しておいたのですが、その後、所在不明になっていました。そのテープが、四半世紀ぶりに長崎放送局の倉庫から見つかったことから、番組の構想がスタートしました。



（上、山田市太郎さんと私。1989年）  
（右、四半世紀ぶりに見つかったテープ）





## 戦後70年の特集番組として企画

折角、見つかった貴重な録音テープを無にしないため、去年秋、戦後70年の特集番組として企画。番組イメージは、ドキュメンタリーの体裁を取りながら、浦上天主堂の鐘をめぐる数奇な物語をドラマとして描く構成です。今年2月、番組企画案が採択され、本格的に番組制作がスタートしました。

## 入局3年目、手寫真吾アナが取材を担当

今回の番組制作には、長崎放送局の協力が欠かせません。そこで長崎放送局に企画を説明し、手寫真吾アナウンサーが制作に加わることになりました。手寫アナは入局3年目。俳優志望だったというイケメンの青年です。大阪と長崎、オジサン（私）と若者という、妙な組み合わせですが、手寫アナにとっては、地域のテーマに真正面から取り組む良い機会。伸び盛りの手寫アナに、番組を作る責任と醍醐味を感じてもらえればと、地域と世代を超えた、熱いコラボレーションが実現しました。



## 徹底した証言収集で「市太郎クロニクル」を作成

山田市太郎さんは20年前に亡くなっていて、その生涯を扱った書籍や記事は、殆どありません。私たちは、市太郎さんの親族や関係者を細かくリストアップして面会し、証言を集めることから始めました。それは、まだ春浅い2月下旬のこと。集めた情報は、年表形式のメモ「市太郎クロニクル」に記載していきました。



## 埋もれていた事実が、次々と明らかに

取材を進めるうちに、重要な情報が集まり始めました。市太郎さんが亡くなる2年前に綴った手記「その時、私が見たもの」も、そのひとつです。被爆当時の状況や心境が詳しく綴られており、関係者が大切に保存していたものを、手寫アナが入手しました。市太郎さんが廃墟と化した浦上の丘を訪ねる場面や、妻や子供たちの亡骸を茶毘に付す場面は、この手記をもとに脚本を執筆しました。晩年、体力が衰えた市太郎さんに、神父が引退を勧める場面も、今回の取材で初めて明らかになった事実です。





## 幻の放送同録を、先輩アナの協力で30年ぶりに発掘

ある日、手寫アナから「戦後40年の平和祈念式典で、市太郎さんが被爆者代表として挨拶をしたようです。1985年の式典です」との情報が寄せられました。平和祈念式典と言えば、長崎局が毎年中継している恒例の行事。「肉声を紹介する格好の素材だね。同録テープが残っている筈だから、資料室を探してみて」と頼みました。ところが、このテープが見つからないのです。長崎局にも福岡局にも、残されていません。長崎市の原爆対策室にも平和資料館にも、ありませんでした。「困ったなあ、どうしよう」。1985年と言えば、私が入局する一年前。そこで当時、長崎局に所属していた先輩アナ、一人一人と連絡を取り、個人的に放送を録画したテープを持っていないか、訊ねてみました。すると、青沼郁夫先輩から「その年は僕の担当だった。家の中を探してみる」とのお返事。やがて「見つかったよ。テープ送るね」との朗報が。青沼先輩のおかげで、30年前の式典で市太郎さんが述べた「平和への誓い」が蘇りました。



## 「奇跡の鐘」を間近に見る

今回の番組で重要な役割を担うのが、浦上天主堂の鐘です。別名「天使のお告げの鐘」（天使のお告げの意）とも呼ばれ、原爆で天主堂が倒壊し、一度は瓦礫の下に埋まったものの、市太郎さんや永井隆博士によって掘り起こされました。奇跡的に無事だった鐘は、戦後、再建された天主堂の鐘楼に戻り、再び荘厳な音色を響かせるようになります。この「天使のお告げの鐘」を間近に見るため、6月16日、私たちは特別に許可をもらい、安全装備を身に付けて、地上29メートルの鐘楼に昇りました。垂直の梯子を昇り切ると、小さな入口の向こうに鐘楼があります。間近に見る「奇跡の鐘」は、どんな様子だったのか。番組で、手寫アナが詳しくレポートします。





## 実力派の俳優陣が一堂に

今回の番組は、ドキュメンタリーとドラマを組み合わせた構成です。ドラマには、BK制作の朝の連続テレビ小説などで脇を固める実力派の俳優陣を起用。先月2日、BKのR2スタジオで収録を行いました。重いテーマを咀嚼し、感情の起伏を制御しながら、リアリティのある演技で番組に深みを与えて下さいました。



## 語りは・・・番組に花を添える音楽は・・・

半年に及ぶ長期取材と制作は、先月下旬、大詰めを迎えました。先月21日には、ナレーションを収録。担当したのは、朗読のスペシャリストである大先輩。夜には、番組の要所で使用する音楽を収録。BKが誇る音楽スタジオに楽器を運び込み、演奏したのは某アナ。果たして、全国大会5位のパフォーマンスや、いかに。続きは、後編をお楽しみに。（文責：星野豊）

特集「響け、長崎の鐘」8/9（日）21：05-21：55 R1 全国